



万葉集

【vol. 106】

訳

重き栲の袖を交わしたあなたは、玉を貫く
越智野にみまかつていく。ふたたび逢うことはあるのだろうか。

柿本人麻呂
巻二（一九五番歌）

河島皇子 挽歌

この歌は、天智天皇の皇子である河島（川島）皇子の挽歌として、柿本人麻呂が泊瀬部皇女に献上

した歌とされます。

長歌（一九四番歌）では客観的な描写もうかがえますが、付随する歌として詠まれたこの短歌は、泊瀬部皇女の立場で詠まれています。「またも逢はめやも」とは、ふたたび逢うことを望んでもそれがかたわらないことを強調した表現といえ、皇子の死を嘆く皇女の心情が伝わってくるようです。

河島皇子は、持統天皇五（六九二年）九月九日に没したと『日本書紀』に記されています。天武天皇八（六七九）年の吉野の盟約に参加し、天武天皇十（六八二）年には国史編纂の大事業を命じられるなど、天智天皇の皇子ではありませんが、「壬申の乱」（六七二年）後に活躍したことで知られます。天武天皇の皇女である泊瀬部皇女が妻であった故かともいわれます。

現存する最古の日本漢詩集『懐

風藻』（七五一年成立）によれば、

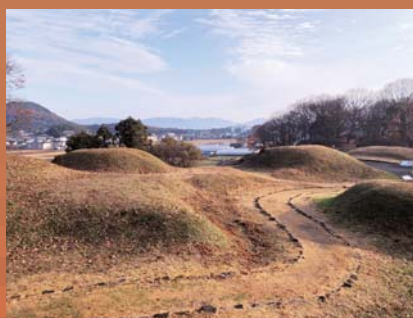
大津皇子謀反事件（六八六年）で

親友を密告した人物とされています。河島皇子は、大津皇子と生涯裏切ることのない友情を約束しながら謀反の計画を密告した、河島皇子への批判は多いがむしろ忠臣として素晴らしい行いである、

ただ、なぜ親友を十分に諫め教えたか、なぜ親友を十分に諫め教えたか、と疑問が記されています。同書には、穏やかで度量の広い人物であったともあり、『日本書紀』には河島皇子が大津皇子を密告したとも、何らかの褒賞を得たとも記されていないことから、実際には謀反事件に関与していなかった可能性も指摘されています。

柿本人麻呂による皇子や皇女の挽歌は何例もあり、いずれも優れた歌と評されています。

（本文 万葉文化館 井上さやか）



写真提供：橿原市

橿原市文化財保存活用課
☎0744-47-1315

越智野は橿原市と高取町の境付近とされています。新沢千塚古墳群は、この付近に営まれた群集墳で、今から1400～1500年前に造られた約600基もの古墳からなります。とりわけ、群集墳の北西端にある低丘陵上に約400基の古墳が密集する範囲は国史跡に指定され、現在は公園整備されています。

新沢千塚古墳群 （橿原市）

万葉ちゃんの つぶやき

和歌や作者などに関連するものを紹介するよ！



万葉ちゃん